

停止後や冷房シーズン終了時のクリーン機能として室内機(熱交換器、通風路、送風ファン、ルー

成する「入浴お知らせ機能」を搭載。湯上りタイマーは、長湯によるのほせ防止をサポートする

と時期が重なることもあり、先んじて太陽光発電システムとの連携を実現した。



土肥 明人所長

## ゼロ・エネルギー・ハウス特集

森永エンジニアリング(社長=小野寺優氏、本社=東京都港区港南3-8-1)は海外メーカー製の温水パネルを用いたセントラルヒーティングシステムを住宅機器販売事業で取り扱う一方、近年では堅牢な太陽熱集熱器やダクトレスの呼吸型熱回収換気システムを海外のメーカーからそれぞれ輸入調達し、日本仕様

置く。両社は昨年、太陽熱で作った温水をリモコン操作一つで床暖房・給湯・蓄熱(融雪)の3用途に使い分けできる太陽熱利用システムを共同開発した。同システムは自然エネルギーの太陽熱を利用するシステムであることから、両社は住宅のZEH化に貢献する商品として、現在提案営業を強化しているところだ。

が選出する2017年度たダクトを施工するのが北海道省エネルギー・新エネルギー促進大賞に正和住設が同システムをエントリーしたところ、新エネルギー部門で大賞を受賞する栄誉に輝いた。他方、森永エンジニアリングはドイツのメーカー製のダクトレス呼吸型熱回収換気システムの取り扱いを2016年3月から開始した。日本の仕様から一部設計を見直して自社ブランド品「森永ルノサン換気システム」として販売している。換気の際に排気する空気から熱を回収し、給気する空

## 太陽熱利用システム普及を

正和住設と共同開発

森永エンジニアリング

## ダクトレス呼吸型熱回収換気 自社企画商品で展開

両社が推奨する太陽熱利用システムは、スウェーデンのメーカーが製造した太陽熱集熱器「K2 Plus」(ケーツー・プラス)を使用する。同集熱器は平板型のソーラーパネルで、積雪の重みに耐え得る堅牢な構造が特長。材料も可能な限り長寿命品を選定している。このため積雪の多い北海道で採用事例がある。年間を通して太陽熱を有効活用することが可能。スマートハウスやZEHを志向するハウスメ

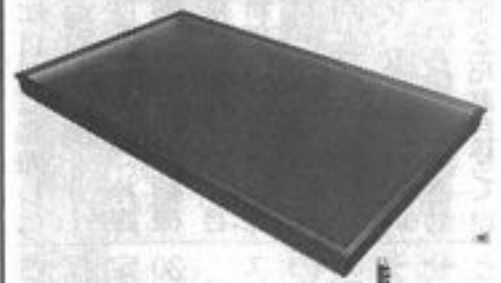
温水を作る。プレート式熱交換器側で作る温水は、床暖房用の暖房層やロードヒーティング用の蓄熱層へとポンプで送り、配管内を循環させて床暖房や蓄熱用熱源で使用する。

水は、タンク内に蓄え、給湯用途で使用する。ここで高い評価を受けている。実際、北海道

に合わせた自社ブランド企画商品として日本国内で展開している。特に太陽熱集熱器に関してはシステム提案の一環で、環境配慮型住宅設備の設計・施工を手掛ける正和住設(社長=高橋正樹氏、本社=北海道石狩市)と連携して主に北海道での寒冷地向け提案に軸足を

した建物内に蓄熱タンクや温水床暖房システムを設置し、屋外にはロードヒーティング用パイプヒートを敷設する。その上で循環水にフライン(不凍液)を用いた「K2 Plus」を屋外に据え付ける。同集熱器で集めた熱をフライン配管で循環させて系統の先にあるプレート式熱交換器や蓄熱タンク内のチューブ式熱交換器で水と熱交換して

移動させて室内に戻す第一種熱回収システムを構成するもの。第一種熱回収換気システムは住宅内に給気と排気それぞれに独立し



太陽熱集熱器「K2 Plus」

気とその熱を移動させて室内に戻す第一種熱回収換気システムを構成するもの。第一種熱回収換気システムは住宅内に給気と排気それぞれに独立し

総一郎氏は、7月の期間、宅建築事業「ノーリ」を家庭の年間消費量